

「1 年生の花壇 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小学校の花壇で育てている作物は、基本的に「無農薬」である。うどん粉病予防の弱い噴霧剤は使うが、強い農薬は使わない。種類によっては、虫の被害を受けるのは仕方ない。



一番被害を受けやすいのは、アブラナ科の野菜だ。この鉢植えのラディッシュ (ハツカダイコンの英名) もかなり被害を受けている。アブラナ科の葉を好むのはシロチョウ科の幼虫で、やはりモンシロチョウの幼虫が多い。月曜日に気づいたら手遅れ・・・ということが多。モンシロチョウは「モンシロ・チョウ」ではなく「モン・シロチョウ」と発音するのが正しい。「黒い紋のある、白蝶」の意味だ。



3組ではトウモロコシを植えている。トウモロコシは成長に時間がかかるので、一期作しかできないが、ダイナミックに育つので、収穫が楽しい作物だ。



ナスは花壇の優等生だ。アブラナ科とちがって害虫に狙われにくく、次々と花を咲かせ短期間で実をつけるので、失敗が少ないのだ。実だけでなく、茎や葉の葉脈まで紫色というのが面白い。



ナスは花も美しい。雌雄同花なので、受粉に成功すれば、基本的に全部の花が実成長する。



ナスは地面に近い位置に実をつけるので、茎が倒れにくく、育てやすい。「ナスの実は土の中で育つ」と思っていた1年生もいたので、このように育つ様子を見せることは大切だと思った。